

## 第4講 気候(1)

### §1 気候要素と気候因子

- ① 気候要素……気候を構成するさまざまな大気の現象で、気温・降水量・風を特に気候の三要素という。(P35 [発展学習] 参照)
- ② 気候因子……気候要素の地理的な分布に影響を与えるもので、緯度、海拔高度、地形、水陸分布、海流が特に重要。
- (1) 緯度……太陽高度の違いによって低緯度ほど単位面積当たりの受熱量が大きくなり、低緯度は高温、高緯度は低温となる。また、高緯度地方は、季節による受熱量の差が大きいため年較差が大きく、逆に低緯度地方は年較差が小さくなる。(P35 [重要チェックポイント] 参照)
- (2) 海拔高度……原則として高度100mにつき約0.6℃ずつ気温が低下する(気温の遞減率)。熱帯地方で高山都市が発達する主要因となる。
- (3) 地形……風や降水量に影響して、山地の風上斜面は [ 1 ] 雨、風下斜面は [ 2 ] 雨となる。
- (4) 水陸分布……大陸は海洋より比熱が小さいため、大陸内部は沿岸部より気温の年較差と日較差が [ 3 ] くなる。大陸性気候と海洋性気候、季節風(モンスーン)の発生に関係。
- (5) 海流……大陸西岸で影響が大きく、低緯度では寒流により低温・乾燥、中高緯度では暖流により高温・湿潤となる。
- ① 暖流の影響例→北大西洋海流の影響で、北西ヨーロッパは緯度の割に冬温暖。
- ② 寒流の影響例→ペルー海流の影響でペルーからチリの沿岸部、ベンゲラ海流の影響でアフリカ南西岸では砂漠を形成。

## 第4講 気候(1) チェックテスト

100

問1 次の気候に関する短文の正誤を判定せよ。正しい場合は○、誤っている場合は×を記せ。

[4点×10]

- ① 低緯度ほど単位面積当たりの受熱量が大きくなるため高温になる。
- ② 高緯度地方は季節による受熱量の差が小さいため、気温の年較差も小さい。
- ③ 寒流が沿岸を流れると冷涼湿潤な気候になりやすい。
- ④ 北半球・中高緯度の大陸西岸と東岸を比較すると、一般に冬季の気温は東岸の方が高くなる。
- ⑤ 気温の年較差とは年間の最暖月平均気温と最寒月平均気温の差で、東京の年較差は21.3℃である。
- ⑥ 湿潤大気の場合、海拔高度が100m上昇すると、気温は約0.6℃低下する。
- ⑦ やませは、初夏に東日本の日本海側に冷害をもたらす冷涼湿潤風である。
- ⑧ 水蒸気を含んだ空気が上昇すると雲が発生し降水の原因となる。
- ⑨ 亜寒帯低圧帯では下降気流が発達するため降水が少なく、砂漠が発達している。
- ⑩ 偏西風は大陸西岸に卓越するが、大陸内部や東岸には影響がない。

問2 次の空欄に最も適当な語句（または地名）を答えよ。[4点×10]

- ① 世界の気圧帯は、季節によって移動し、7月には（ 1 ）、1月には（ 2 ）する。
- ② 貿易風は（ 3 ）帯から（ 4 ）帯に向かって吹き込む恒常風である。
- ③ 偏西風は（ 5 ）帯から（ 6 ）帯に向かって吹き込む恒常風である。
- ④ 季節風（モンスーン）は、アジアで発達するが、夏季には（ 7 ）から、冬季には（ 8 ）から吹き出す風で、季節により風向を変える。
- ⑤ 熱帯低気圧は、東アジアで台風、カリブ海周辺では（ 9 ）、インド洋では（ 10 ）とよばれ、洪水や高潮などの被害を与える。

問3 次の気候環境に関する問いに答えよ。[4点×5]

- ① 現地観測気温を海拔0mの気温に修正することを何というか。
- ② 北西ヨーロッパの沖合を流れ、沿岸部に冬温暖な気候をもたらす暖流を何というか。
- ③ 偏西風の高層を吹く強い西風を何というか。
- ④ 湿潤な気流が山地を越える際に雨を降らせ、さらに乾燥した気流が山地を越えて下降する際に高温乾燥風となる現象を何というか。
- ⑤ 東北地方の太平洋側に初夏、オホーツク海気団から吹き出す冷涼湿潤な風を何というか。